



油彩画「夏椿」 作者：玉生 道經（弘昌氏の父）  
（インテック所蔵）

## 人間的認識能力



株式会社ブラネット  
代表取締役会長

玉生 弘昌氏  
たまにゆう ひろまさ

IBMのディープブルーがチェスの王者を打ち負かし、将棋でもコンピュータの方が強くなってきました。コンピュータは、記憶容量も処理スピードも人間を大きく凌いでいます。いずれ、すべての面で人間はコンピュータに敵わなくなるのでしょうか。そんなことはありません。人間にしかできないことがあるのです。

人の情報認識能力には、五感による知覚、論理的推理をする理性、形而上的価値を直接感じ取る悟性の3つがあります。言うまでもなく、五感による知覚は目で見、耳で聞く認識です。今やセンサーが進歩し、人間は敵わなくなっています。論理的推理を司る理性は科学的認識です。悟性は、真善美など形而上学的価値を直接認識する能力です。感性、上智などとも言いますが、ここでは悟性と呼ぶことにします。

人間の理性的認識能力による理論の積み重ねは科学を進歩させてきました。科学の発達によって人間は極めて便利な文明社会を築いてきました。近頃は、ロボットの出現によって、人間を凌ぐのではないかと恐れられています。

さらに、人類は真善美を感得する悟性

によって美術や宗教を生み出してきました。ミロのヴィーナスを観て人は美しいと感じます。美しくないと思う人はよほどのへそ曲がりです。つまり、人は美しいと感じる認識能力を普遍的に持っているということです。また、人は宇宙には何らかの摂理が働いているに違いなく感じ、人類の大半は何らかの宗教を信じています。つまり、人は悟性によって文化を育んできたのです。

この悟性こそがロボットと人との違いなのです。真善美をロボットは認識できません。言葉にすることができないからです。なぜなら言葉は理性によって作られたものだからです。

唯物論的合理主義による科学万能に偏ると、誤った道に踏み入ってしまう恐れがあります。出来る！出来る！と科学を積み重ねていくと原爆のようなものができてしまうからです。科学には美しいか醜い、正義なのか悪なのかという概念がありません。

それを正しい方向に導くのが、人間の悟性でなければなりません。価値をしっかりと認識して、科学を導くと言うのが現代人の欠かせない役割となっています。